

麦づくり情報(No.4)



1) 調査結果(3月3日調査)

場所	品種名		播種日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	主稈葉数 (L)	葉色	概況
牛 津	サチホゴールデン 4条播き	本年値	12/7	22.3	1541	8.6	37.9	草丈は平年と同程度。(101%) 茎数は平年より多い。(152%) 葉令からみた生育は平年より早い。 幼穂長2~3mm。
		平年値	12/4	22.1	1013	7.1	43.5	
		農試本年値	12/10	28.5	964	6.9	-	
		農試平年値	12/10	20.4	920	6.3	-	
大 和	シロガネコムギ 8条播き	本年値	11/18	46.5	895	10.1	44.9	草丈は平年より高い。(204%) 茎数は平年より多い。(122%) 葉令からみた生育は平年より早い。
		平年値	11/28	22.7	735	6.8	43.0	
		農試本年値	11/20	44.4	953	8.4	-	
		農試平年値	11/20	35.1	785	7.7	-	

気象概要

2月2~6半旬の平均気温は、2月4半旬は一時的に低くなったものの、平年比+1.8℃と高く推移した。降水量は降雪があったが、平年比91%とやや少なく、日照時間は平年の129%と長かった。

生育概況

- 11月中旬播種の小麦は現在10~11葉期となっており、最高分けつ期を過ぎている。葉令の展開も早く、分けつの発生も旺盛で平年よりも早い生育となっている。
- 12月上旬播種の大麦は8~9葉期となっており、初期生育が乾燥・寒波で遅れたものの現在は平年よりやや早い生育となっている。情報田(12月上旬播大麦)では現在節間長10~15mm、幼穂長2~3mmで、節間伸長期~茎立期を迎えている。

2. 今後の管理

○穂肥施用について

◎近年、大麦・小麦ともに、タンパク質含有率が低い傾向にある。品質確保のため、必ず穂肥を施用する。

2月の降水量と葉色により、穂肥量を決定する。

(降水量が多い場合は、肥料の流亡が多くなるため、施肥量を多くする)

ビール大麦 【タンパク質含有率値の目標：10~11%】

葉色が濃い圃場を除いて、BB602で20kg/10aを基準に施用する。

小麦 特にパン用小麦・チクゴイズミは、タンパク質含有率確保のため、必ず穂肥を実施する。

	2月の月間降水量 平年値:77mm	3月上旬の葉色 (SPAD値)	穂肥施用量 BB602(N成分)/10a
大 麦	50~100mm	42以下	20(3)kg
		43~45	
		46以上	15(2)kg
小 麦		地域のこよみに準ずる	

今年の2月降水量は
94mmである。

○排水対策

2月の降雨量は94mmと平年より多く、今後も降雨量が増えることが予測される。
湿害により根の生育が抑制され、登熟に影響するため、排水溝を再整備するなど排水強化を行う。

○病害虫防除

大麦：一部圃場で網斑病の発生が散見されている。上位葉で確認された場合は、直ちに網斑病対策として薬剤散布（チルト乳剤等）を行う。

○雑草対策

高温多雨で推移したため、雑草の発生も多くなっている。
特に、ヤエムグラ、ミチヤナギの発生が目立っている。
除草剤の処理時期を逸さないように早めに茎葉処理剤を施用する。



ヤエムグラ



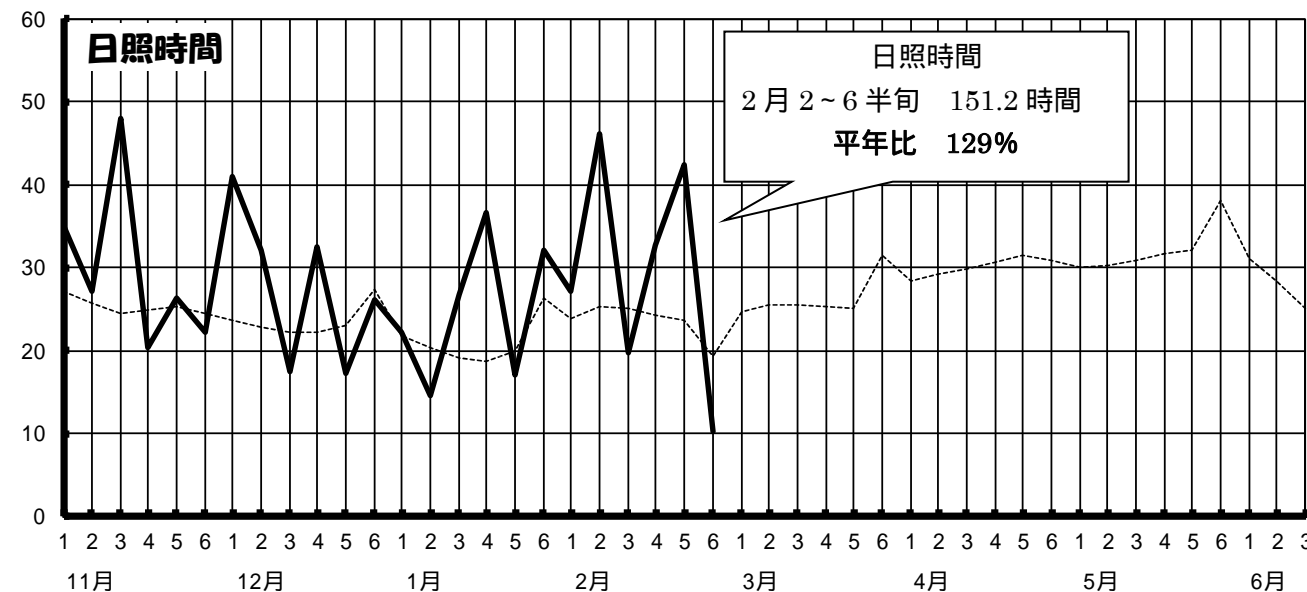
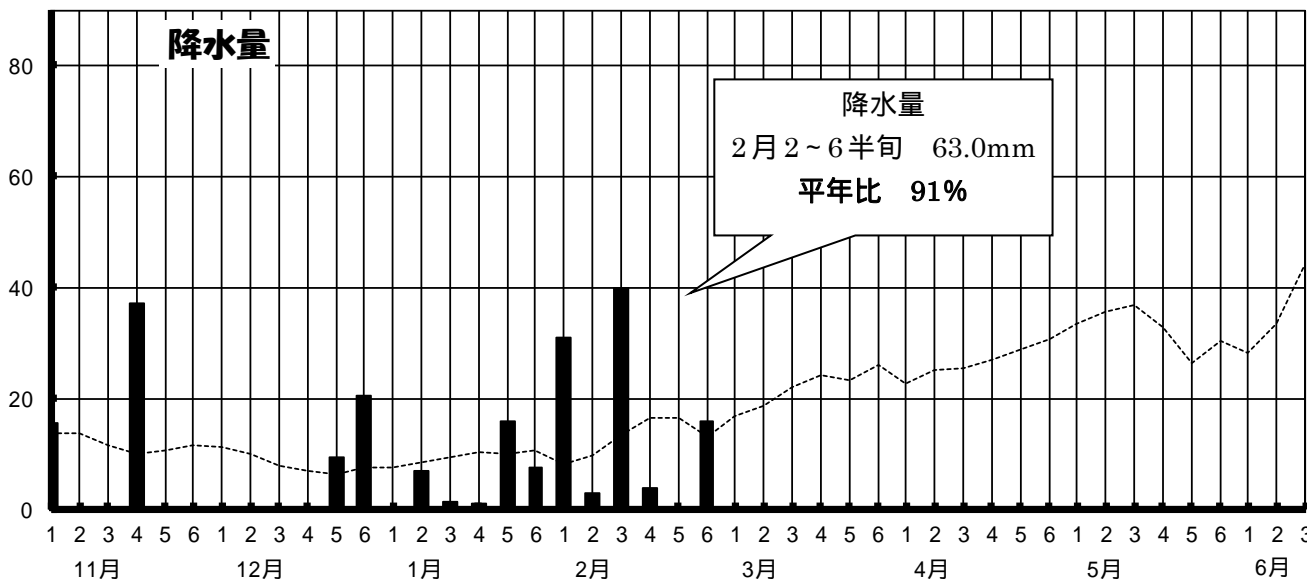
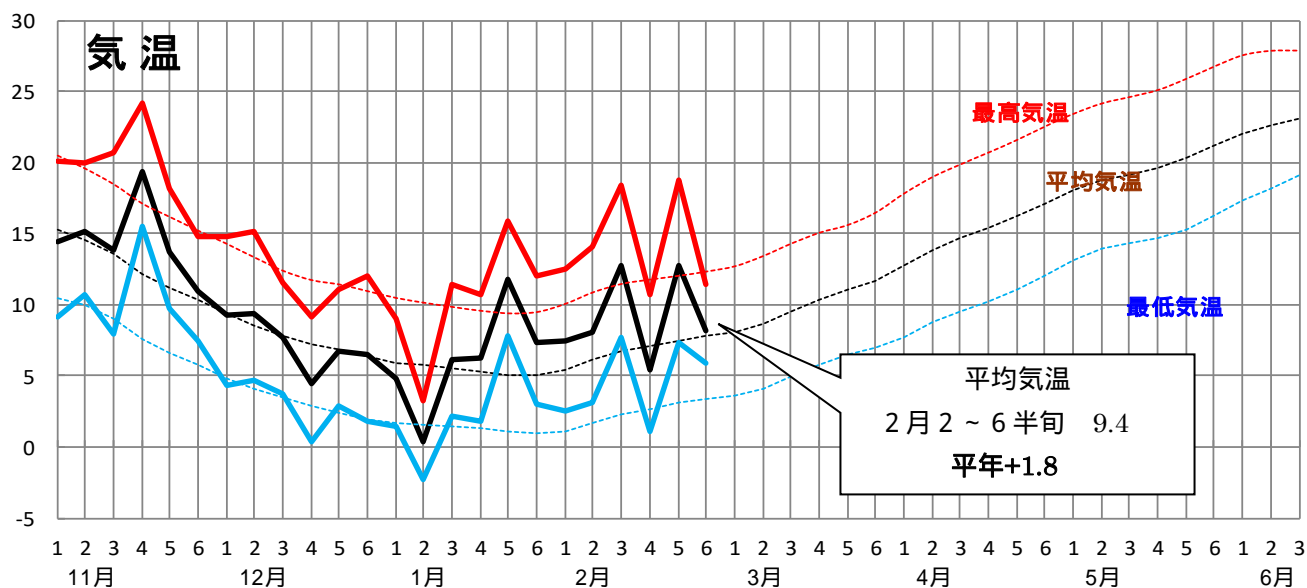
ミチヤナギ

農薬名	効果のある雑草	使用量 (/10a)	希釈水量 (/10a)	使用時期	総使用回数	留意事項
ハーモニー75DF水和剤	1年生広葉雑草 スズメノカタビラ カズノコグサ	5~10g	100L	は種後～節間伸長前 （※小麦のみ は種後～穂ばらみ期まで 但し収穫45日前まで）	1回以内	・カズノコグサには10g/10aとし、土壌処理剤との体系処理で使用 ・周辺作物(特にタマネギ)への飛散には十分留意する
アクチノール乳剤	1年生広葉雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml	70~100L	穂ばらみ期まで (雑草生育初期)	2回以内	・ヤエムグラ、カラスノエンドウ、タデ類に効果が高い
バサグラン液剤	1年生雑草 ※イネ科雑草には効果がない	100~200ml	70~100L	生育期(雑草3~6葉期) 小麦は収穫45日前、 大麦は収穫90日前まで	1回以内	

※エコパートフロアブルについて、昨年、適用時期を過ぎた使用で著しい薬害となっていた圃場が散見された。使用時期については薬剤のラベルを確認し、散布する。散布は“節間伸長開始期まで”。

令和3年産麦類生育期間気象グラフ アメダス観測値（佐賀）

佐城農業改良普及センター



グラフ中の点線は平年値